

情報提供日：令和7年9月24日

小学生向けの解説シートもある！ 国指定重要文化財 全16幅一挙公開 『絹本着色十六羅漢像』複製品公開展を開催(9/20～10/19)

龍ヶ崎市教育委員会では、金龍寺(きんりゅうじ・龍ヶ崎市若柴町)所蔵・国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像(けんぼんちやくしよくじゅうろくらかんどう)」複製品公開展を令和7年9月20日(土)から10月19日(日)まで龍ヶ崎市歴史民俗資料館で開催しています。

本展示は、5回目の開催。平成29年から4年かけ作製した複製全16幅を年に1回、公開する貴重な機会です。

会場では掛軸の展示のほか、複製時の作業解説や、小学生向けの解説シートなどを用意し、本市が誇る名品をわかりやすく、より身近に感じてもらえる展示となっています。

最新のデジタル技術と熟練の職人の手作業により実物を忠実に再現し、荘厳な雰囲気を出した羅漢像が並ぶ姿は一見の価値があります。

本市が誇る名品の公開展の周知に、報道機関各位のご協力をお願いします。

国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像」とは

金龍寺(きんりゅうじ・龍ヶ崎市若柴町)所蔵。鎌倉時代後期から南北朝時代の前期ごろに作られたと考えられている、全16幅の掛軸です。大正6年に国指定重要文化財に指定されています。

実物は、現在茨城県立歴史館に寄託されていますが、保存の観点から常設展示はされていません。



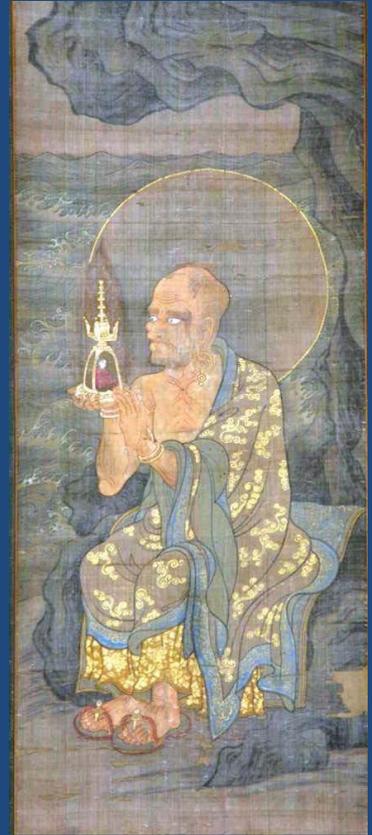
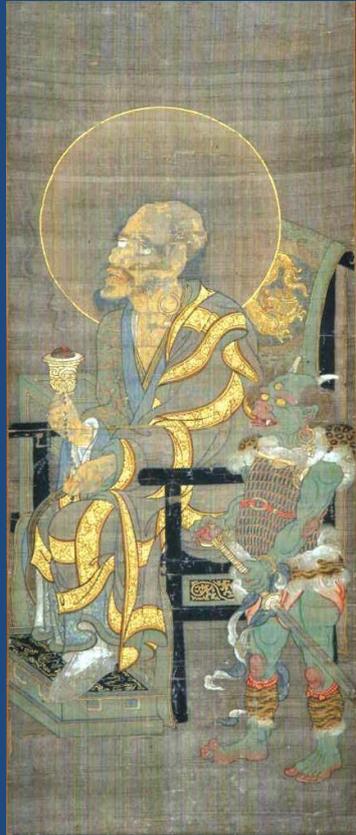
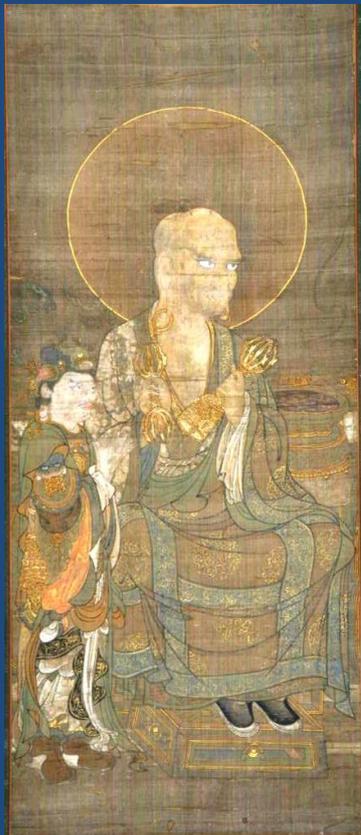
- 日時 令和7年9月20日(土)～10月19日(日) 午前9時から午後5時まで
※休館日(9/22・29、10/6・14)を除く
- 場所 龍ヶ崎市歴史民俗資料館 企画展示室(所在地:龍ヶ崎市馴馬町2488番地)
- 主催 主催:龍ヶ崎市教育委員会
協力:金龍寺
- 詳細 「絹本着色十六羅漢像」掛軸全16幅のレプリカを展示。
その他レプリカ作製時の工程紹介や金龍寺に関するパネルなども展示しています。
- 入場料 無料(自由に見学できます)
- 資料 公開展チラシ

担当課

龍ヶ崎市教育委員会 文化・生涯学習課 文化学習推進G(歴史民俗資料館)
担当者:鈴木(すずき)
連絡先:0297-64-6227(直通)

金龍寺所蔵 〈国指定重要文化財〉

『絹本著色十六羅漢像』 複製品公開展



2025年9月20日(土)～10月19日(日)

龍ヶ崎市歴史民俗資料館[企画展示室]

- 開館時間 ▶ 9:00～17:00
- 入館料 ▶ 無料
- 休館日 ▶ 9/22,29,10/6,14



〒301-0004 茨城県龍ヶ崎市馴馬町2488番地
TEL. 0297-64-6227 / FAX. 0297-64-6360

主催: 龍ヶ崎市教育委員会 ◇協力: 金龍寺

- JR龍ヶ崎市駅から車で15分。
- 関鉄竜ヶ崎駅から徒歩20分、または車で5分。



絹本着色(けんぽんちゃくしよく)十六羅漢像一覧表

番号	名前	住処
第一尊者	賓度羅跋囉墮闍(ひんどらばらだじゃ)	西瞿陀尼(さいくだに)州
第二尊者	迦諾迦伐蹉(かなかばっさ)	迦湿弥羅(かしみら)国
第三尊者	迦諾迦跋釐墮闍(かなかばりだじゃ)	東勝身(とうしょうしん)州
第四尊者	蘇頻陀(そびんだ)	北俱廬(ほっくる)州
第五尊者	諾距羅(なこら)	南瞻部(なんせんぶ)州
第六尊者	跋陀羅(ばっだら)	耽没羅(たんぼら)州
第七尊者	迦理迦(かりか)	僧迦茶(そうかだ)州
第八尊者	伐闍羅弗多羅(ばっじゃらほつたら)	益刺太拏(はらだど)州
第九尊者	戍博迦(じゅばか)	香醉(こうすい)山
第十尊者	半託迦(はんたか)	三十三天(さんじゅうさんてん)
第十一尊者	囉怛羅(らごら)	畢利颯衢(びりようく)州
第十二尊者	那伽犀那(ながさいな)	半度波(はんどば)山
第十三尊者	因揭陀(いんかつだ)	広脇(こうきょう)山
第十四尊者	伐那婆斯(ばつなばし)	可住(かじゅう)山
第十五尊者	阿氏多(あした)	鷲峯(じゅうぶ)山
第十六尊者	注荼半託迦(ちゅうだはんたか)	持軸(じじく)山

～金龍寺の「十六羅漢像」とは?～

金龍寺(龍ヶ崎市若柴町)の十六羅漢像(以下、本図)は、寺伝によると曹洞宗の開祖・道元(1200～1253)が中国・天童山(てんどうさん)で修行を積んだのち、帰国する際に南宋の理宗(りそう)皇帝(在位 1224～1264)から賜ったものであるとされています。道元は本図を福井県の永平寺(えいへいじ)で供養した後、鎌倉の建長寺(けんちょうじ)に贈りました。本図はその後、鎌倉幕府の執権・北条氏の手に移りましたが、北条氏を滅ぼした新田義貞により菩提寺(ぼだいじ)である金龍寺に納められたといわれています。

本図は写実的な描写が特徴の「李龍眠様(りりゅうみんよう)」の様式で描かれています。

羅漢像を祀(まつ)るときは、ふつう釈迦図などを中心にして配置します。本図を順番のとおり並べていくと、尊者2人ずつが対になるように構成されています。これは、奇数の尊者が画面に向かって左側を向き、偶数の尊者が右側を向くように描かれているためです。

表現技法としての特徴は、金泥を使い、衣装等に精密な模様を施している点にあります。背景の図に中国の宋代の山水画らしい特色がありますが、樹本の表現に新しい技法が見られる点から、本図は宋代の羅漢像に影響を受けた鎌倉時代後期のわが国で作られたものと考えられます。

本図は、16幅すべて揃っており、保存状態も良好であることから、大正6(1917)年に国の重要文化財に指定されました。現在は茨城県立歴史館(水戸市)に寄託され、現物を見るのが難しくなっています。そこで全16幅の複製を開始、令和3(2021)年に完成しました。現在この複製は龍ヶ崎市歴史民俗資料館に所蔵されています。